

## カテーテル室と病棟を繋げる取り組み、病棟看護師視点での報告

川村 双葉<sup>1</sup>、安西 美恵<sup>1</sup><sup>1</sup>社会医療法人大道会森之宮病院

【はじめに】当病棟は循環器内科・乳腺外科の混合病棟で、多いときは1日に7～8件のカテーテル治療前後の看護を行う日がある。既存のカテーテル申し送り用紙は申し送り内容と出棟前チェックリストが混在しており、申し送りがスムーズにできず、チェック項目の不備も多々みられた。コミュニケーションエラーにより、ルールが周知できていないことで、何度か同様の指摘をうけることもあった。今回管理職にてカテーテル室・病棟間の話し合いが設けられ、申し送り用紙の改定が行われた。また、細かいルールを共有するための、カテーテル前後に関する動画作成も行われたため、病棟での反応について報告する。【方法】改定されたカテーテル申し送り用紙について、病棟スタッフへ変更点を説明した。動画視聴しやすいよう、病棟のパソコンへ保管し、その反応を口頭で調査した。【結果】カテーテル出棟時の申し送りは、申し送り必要な点が視覚的にわかりやすく、新人スタッフや中途入職者も自信をもって申し送りをできるようになった。病棟スタッフ全員が動画視聴でき、カテーテル室内での看護を写真や動画で知ること、カテーテル前後の看護について、ケアの根拠、注意点への理解が深まった。病棟の意見が反映された業務改善がされたことで、納得した看護を行えるようになった。【考察】自分たちの意見を伝え、業務改善につながった経験は、スタッフのフォローシップを高め、円滑なチーム医療につなげることができた。